



## 出穂早まる予想！ 穂肥の後は、間断かん水で根の活力を維持！

### ◎ 生育概況と技術対策

「雪若丸」の7月8日現在の生育は、指標値に比べ、草丈が長く、茎数が多く、葉数がやや多く、葉色は濃くなっています。

農業総合研究センターの幼穂調査では、出穂期は平年より2日早い予想です。

平坦部「雪若丸」の生育（7月8日現在）

項目	調査値	指標値	指標比・差
草丈	57.0 cm	50.6 cm	113 長い
茎数	666 本/m <sup>2</sup>	628 本/m <sup>2</sup>	106 多い
葉数	10.7 枚	10.3 枚	0.4 やや多い
葉色 (SPAD)	43.9	41.3	2.6 濃い

※各農業技術普及課の調査結果を平均した値

「雪若丸」予想出穂期（7月7日現在、農業総合研究センター調べ）

場所	予想出穂期	平年出穂期 <sup>※</sup>	平年差
山形市みのりが丘	8月1日	8月3日	-2日
鶴岡市藤島	7月31日	8月2日	-2日

※過去7か年（H27～R3）の平均値

### （1）穂肥後は間断かん水！

穂肥施用後は、飽水管理（土壌表面の足跡に水が残る程度）を行い、その後は間断かん水に移行します。2～3日毎に湛水と落水を繰り返し、根の活力維持に努めましょう。

### （2）最低気温が17℃を下回るような低温の場合は深水管理！

穂孕期（出穂14日前～7日前頃）に、最低気温が17℃を下回ることが予想される場合には、深水管理で幼穂を保護し、不稔粒の発生を軽減します。

### （3）斑点米カメムシ類急増！草刈りの徹底を！

斑点米カメムシ類の発生が急増しています！畦畔や法面、農道の雑草が繁茂しているところでは、出穂2週間前頃までに地域全体で草刈りを進めましょう。

**農作業事故と熱中症に十分注意してください！**

**休憩をこまめにとり、水分補給を行いながら、無理のない作業を！**